

「必修化」と「自発性」



沖繩尚学高等学校附属中学校 校長
博士(教育)
名城 政一郎

沖繩尚學

編集：沖繩尚学高等学校附属中学校
PTA文化教養部
〒902-0075 那覇市国場747番地
TEL (098) 832-1767・853-1579
http://www.okisho.ed.jp
発行：有限会社 南風原印刷
TEL (098) 834-1616

金城PTA会長はじめ保護者の皆さん、平日頃の本学園へのご支援ありがとうございます。

さて、教育には、児童中心主義のように、子供の自発的な活動や経験を重視し、子供の立場に立つて教育内容や方法を決めるべきとする教育観と、系統主義のように、教育する側が子供にとって望ましいと考える知識や技能、価値観などを体系的に習得させるのが好ましいとする教育観があります。そして、多くの場合、これら2つの教育観は相容れないものとして対立的に説明されます。

では、沖繩尚学の教育はどちらに分類されるのでしょうか？沖繩尚学

の教育システムは、教科学習、沖縄伝統空手、英検、ボランティア、異文化交流など学校側が望ましいと考える教育活動を必修化している点では「系統主義」といえます。しかし、生徒たちは、それぞれの活動において友人たちと共に努力するプロセスで、いつの間にか自発的に、自発的に取り組むようになります。例えば、沖尚に入学して、空手を「強制」的

にはじめさせられた生徒も、練習、昇級試験、演武会などを体験し、先生に言われなくとも自分から一生懸命取り組みようになります。英検も然りです。これは「児童中心主義」の教育観に合っています。つまり、きちんと取り組めば自発的にやってくるような活動を必修化している沖繩尚学の教育は、系統主義と児童中心主義を組み合わせた、両者の良いところ取りのシステムといえます。

私は、一生懸命取り組んだ生徒たちが「簡単ではなかった、大変だった、でも、やって良かった」と言い、教えた先生方そして保護者の皆さん

が、本心から「良かった」と思える、そして社会も「いいですね」と喜んでくれる、これが必修化の条件だと考えています。すなわち、必修にする活動は、その目標が達成できれば自分もみんなも喜ぶ「良い目標」でなければなりません。必修化が、難儀なだけで時間の無駄と思われる知識や技能の習得だと、「やり切つて出し切る」喜び、充実感を体験できません。嫌なことを早く終わらせる、つまり、マイナスをゼロに近づけるだけで、自分も人も幸せにすることができないからです。空手、英検、ボランティア、異文化交流のどれをとっても、真剣に打ち込めば「やって良かった」と思えるものと確信して必修化しました。

先日、バカロレアの最終試験を終えた6人の高3生をインタビューしたところ、「とても大変でしたが、やって良かったです」「自分が変わったのがわかります」「連帯感が強まりました」などと話してくれました。担当した先生方も「夏休みも返上で大変でしたが、やって良かった、これからも続けるべきです」と語ってくれました。

今年も、教師と生徒がプロジェクト30で目標を共有し、「やり切つて出し切る」体験を経て、生徒全員に「大変でしたが、やって良かったです」と言ってもらえる教育を実践

していきいます。今年もよろしくお願ひします。

戌年の教訓

アメリカのジョークブックで見つけたジョークです。

あるところに、人をけなしてばかりいる男がいました。人が何を成し遂げても、揚げ足を取つてけなす。常日頃、この性格を直してやりたいと思っていた友人が、すごい犬を手に入れました。水の上を走る獵犬です。湖に落ちた鳥を「あつという間に」くわえて戻ってくる。さすがのあいつもこの犬が水面を走るのを見たら「すごい！」と驚くだろうと思ひ、友人を鳥撃ちに誘ひ出しました。「ダーン」「パタパタ」「ポッチャン」鳥が湖に落ちるや否や、獵犬は矢のようなスピードで水面を走り、鳥をくわえて戻ってきました。「どうだ、すごいだろう？」とたずねると「がっかりしたよ。おまえの犬、泳げないんだ」と答えました。

これでジョークはおしまいです。私は思わず吹き出しましたが、皆さんはいかがですか？笑った後、ふと思ひました。人をけなす男、それを直そうとする友人、そして水面を走る犬。自分はどうなんだろう？さて、みなさんは、なれるとしたら誰になりたいですか？私は○○○になりたいです。

沖尚の教育のルーツを探る 名城政次郎先生インタビュー



名城 政次郎
学校法人 尚学学園 理事長
沖縄尚学高等学校 校長

名城先生の學校作りの理念や沖縄尚学を作られた経緯を教えてください。

私は、さりげなく學校訓の理念を念頭において、沖縄尚学高校を発足させました。そのころ、沖縄は学力最低県と言われていました。進学するための受験勉強は通常の教育を阻むものという考えが、教育関係者の間にも広まっていたと思います。平和教育を目指すべきであり、難関大学などへの受験勉強は正常な教育をゆがめるという考えがあったと思います。

私は、受験勉強の過程において、人間力と学力を伸ばすべきだと考えていました。心の持ち方としては、「怖れず侮らず気負わず、やるべきことに取り組む」、「暖かみ厳しさ知性を身につけ、感謝と奉仕の心を実践する」この2つの理念を実践する努力が不可欠と考えていました。

第二次大戦で、戦争の被害を被った沖縄は有能な青少年が多数戦死しています。混沌とした状況から、落ち着いて勉強する雰囲気はなくなっていました。このような状況の沖縄の学力が低いのは、当然のことと受け止めるべきだと思っていたのです。

しかし、日本の1つの県として本土並

みの学力の水準を目指すのは、当然のことと考えていました。ですから私は、尚学院という予備校を一生懸命経営し、沖縄の学生の学力を伸ばし、本土の水準に近づける努力をしました。具体的には、私自身、陣頭に立って教鞭を執り、また、英語のラジオ講座（尚学院アワー：FM沖縄）を引き受けたり、社会を啓蒙するための評論を新聞や雑誌に書き続けました。私は当時沖縄大学と沖縄高校を運営している嘉数学園の評議員でした。昭和57年嘉数学園の沖縄高校担当理事、故・米盛先生（当時教頭）が何度も私のところに来て、「沖縄高校を引き取って、先生の學校にしてください」と頼まれました。「昭和58年3月には廢校が決定すると思いません」と危機的状況を述べていました。県立高校の増加により、沖縄高校への受験生が著しく減少したからです。私立高校の教育に貢献してきたと、考えていましたので、昭和57年の12月、私が高校を引き取って新たに発足させます、と返事をしました。

一期生は、沖縄尚学院高等学校として生徒募集をしました。尚学院が本気であると言うことを示すために、尚学院と入れたのです。校舎も危険建築物になっており、何力所かのビルを借りて授業をしました。一期生、二期生、三期生と入学者がどんどん増えました。何の不平も言わず、厳しい環境の中で、みんなよく頑張ってくれました。学ぶ校舎も満足とは言えない状況でした。社会に暖かみ厳し

さ知性を感じさせることができる人材を輩出するための學校。学力と人間力を伸ばす教育を目指したのです。遅しい文武両道の學園を目指して、職員も生徒も保護者も一丸となって、頑張り続けてきました。

先生の人生と本校の教育とのつながりを教えてください。

私自身、學歷を身につけるといふ点では、不運だったと思います。私は台湾で生まれ、台湾の台南州立第一中學校から昭和21年に愛知県立岡崎中學校（旧制）に転入しました。そして、昭和24年3月岡崎高校（旧制中学5年課程）を終えました。幸いにも去年（平成29年10月1日）に岡崎高校から感謝状を授与されました。岡崎高校創立120周年行事に私も招待され、沖尚職員とともに参加しました。式典の中で12名の卒業生が表彰され、その一人として選ばれたことを大変光栄に思っております。平成3年には岡崎高校で講演させていただきました。

岡崎高校卒業後、昭和25年2月に沖縄に来ました。生まれて初めて故郷・沖縄の地を踏んだのです。父、故・名城政雄が中部農林高校で英語を教えておりました。私は短期間の間にめまぐるしいほど職を変えました。まず、昭和25年4月、具志川村の田場小学校の代用教員になり、その4ヶ月後、ライカムの米軍基地に事務職員として就職しました。7ヶ月後の昭和26年4月、沖縄群島政府立名護英語學校に進学しました。同年9月28日、英語學校速成科をリーダーリング、ライティング、スピーキングの3つの賞を独占して卒業し、その三日後の10月1日に那覇尚學塾を開設。父名城政雄を塾長として、私の名護英語學校時代の同級生から宮城宏光

氏（後の沖縄県副知事）などの講師を集めたり、いろいろな面で塾の運営に参加しました。那覇尚學塾（尚學院の前身）は、教育者であった父名城政雄の、教育事業に対する関心を踏まえて始めました。父の教育に対する情熱を知っており、たので、できるだけ協力することを考えておりました。那覇市内の城岳小学校の校舎を夜間借用して授業を行いました。初等科、中等科、高等科3つのコースを設置しました。夜は那覇尚學塾で教鞭を執り、昼は同年10月21日から琉球米国民政府法務部軍事法廷通訳官として就職しました。怖れずに英語を使うことに専念しました。那覇尚學塾、名城翻訳事務所、週刊新聞・新琉球、この3つの仕事をすると同時に、昼間は、月曜日から金曜日まで、米国民政府に勤務し、週に三日間は米人判事の通訳をしました。その後、新しいコースを尚學塾に設けました。それは、翻訳通訳科と米留受験科です。これらのコースも、私が主力となって頑張りました。翻訳の仕事も、特に琉球政府並びに、米国民政府関係の翻訳の仕事は非常に多かったです。例えば、琉球政府の行政診断書、和文英訳1000ページの仕事を依頼されましたが、このようなたぐいの翻訳の仕事です。毎日が多忙を極める生活でした。そして、昭和31年、結婚してから東京に行き、短期大学に入学し、2力年の課程を卒業しました。短期大学に入学するときにはもう既に、英語のプロとして頑張っていましたので、在学中も優秀な成績を収めることができました。

コザ尚學院を経営しながら、大学に通いました。どんなことも、「やれない」とたじろいだことがない、「全てできる」と気負わずに冷静に、そのように思い込んでいる自分の姿を今も思い出せます。

第七回空手演武大会

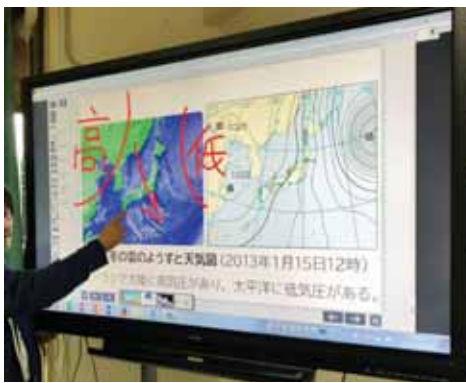
平成三十年二月十六日(金) 第七回 沖繩尚学高等学校附属中学校空手演武大会が行われました。今年はこちらで、すぐ横で巨人キャンプが行われている奥武山運動公園内の県立武道館で行われました。空手道連盟の照屋光栄会長を始め県教育委員会からも多数のご来賓の方がおいでになり、大会を盛り上

げて下さいました。また、平日にも関わらず、ギャラリィいっぱい保護者もおいでになり、本校の空手に対しての関心の深さを感じました。まずは開会式。全生徒の凛とした空手着姿は圧巻で大変頼もしく立派なものでした。試合が始まり一年生は初め



ての大会にも関わらず堂々と元気いっぱい、の気合が会場中に響きわたっていました。二年生は、中堅学年として去年の経験を活かし、まだまだ未熟な所もありますが、各流派の形をしつかり覚え、クラス・チームが一丸となって連帯感を発揮しました。三年生は、沖尚中を引っ張る最上級生として、立派に、そして落ち着いた演武を披露し、積み重ねてきた技を遺憾なく発揮しました。また今回も、さらにクラスの連帯感を深める事が出来る

電子黒板、iPadなど導入



よう大きなクラス旗を作成し、四字熟語やイラストなどで各クラスの個性を出し、ギャラリィに掲げ、大会を盛り上げました。早朝練習を空手指導の先生方にお願

いしたところ、快く引き受けてくださり、技術面においてもさらにパワーアップすることができました。あるクラスでは並び順やクラス旗への熱意から意見がぶつかり、担任が仲裁に入るこ

ともありましたが、そのことを通じて、じっくり話し合いができ、よりクラスがまとまりましたとの声が聞こえます。この大会で生徒達はもちろんですが、私たち教員も多くのことを学び成長することができました。一年間の空手授業の集大成となる大会です。今後、年度の節目として大切にしていきたいと考えております。

中学体育科主任 徳田 礼

教育環境のICT面での整備を目指して、中学全クラスのテレビを70インチの電子黒板にしました。多くの先生方が、板書とともにパワーポイントやデジタル教科書を併用した授業を行っている中で、より見やすく、生徒も参加しやすい大型の電子黒板を導入しました。同時にiPadを12台導入し、グルー



プ学習に威力を発揮しています。英語の授業では、お互いの発表を動画で撮り、電子黒板の大型画面で共有するなど様々な使い方をしています。

ホームルームでは、活動の直後に先生が写した写真や動画をその場で生徒に見せるなどで大活躍。iPadで撮影だけでなく、編集した動画を学園祭で上映したクラスもあります。

2020年度からの大学入試改革に向けて、主体的・対話的で深い学びを実践するためのツールとして活用していきたいと考えております。

うございます



剣道一筋

三年五組 前竹 泰成



僕は、剣道部で副部長でした。周りの人より遅く入部したので、最初は他の部員

に差をつけられていました。早く皆に追い付きたかったので、家でひたすら練習しました。勉強で忙しいことが多かったけど、すぎ間時間を見つけて素振りをしました。

そして、いつしか僕は確かに強くなりました。稽古でも勝てるようになりました。ただ一人を除いては：

。それは部長です。彼は小学生の時から剣道をしていて、大会でもよく優勝していました。彼だけには本当に歯が立ちませんでした。なので、僕達部員は「打倒部長」を合言葉に、お互いを高め合っていました。：それでも彼には勝てませんでした。

時は過ぎ、最後の大会で僕達はベスト8に輝きました。地区9位からの県ベスト8でした。この時はとてもうれしくて、剣道が続けてきてよかったと思えました。部活動はきつかったけど、仲間同士で支え合い、励まし合い、ここまでやって来れました。チームメイトの仲の良さは、どこよりもいいと思います。指導して下さった先生方、チームメイト、本当にありがとうございました。こ

母に感謝

三年三組 山根 奎



中学校に入學してすぐ、私に地獄のような試験が立ちました。それ

は「通学」です。学校から遠い地域（沖繩市）に住んでいる私にとって、慣れるまで通学というものは地獄のような試験としか感じられませんでした。

毎朝、スクールバスに乗り遅れないように必ず五時半に起床し、帰りは路線バスで乗り過ぎさないように眠気と闘う、という毎日でした。こんなきつい通学を三年間続けることができたのは、母のサポートのおかげです。目覚まし時計を鳴らしても起きない私に優しく声をかけて時間通りに起こしてくれたり、朝とても早くて時間もあまりないにもかかわらず毎日毎日しっかりと栄養のバランスを考えた朝ごはんを作ってくれました。そして、空手演武大会の朝練に参加していた期間、約一か月の間、母に学校まで送ってもらいました。さらに、私には弟と妹がいますが、朝練の期間は、仕事で疲れているはずの父も早起きして母の代わりに弟

や妹の面倒をみていました。それなのに私は二年生の空手演武大会の団体戦、個人戦で良い結果を出せず、とても悔しかったです。

四月から高校生活が始まります。高校生になると給食がなくなるので弁当を作らないといけなくなったり、弟が中学校へ進学することもあって、今よりもっとお母さんに迷惑をかけそうな気がするのですが、お母さん、これからもよろしくね。

感謝

三年六組 仲間 優晴



長いようで短かった中学校生活も終わりへと近づいています。この三年間で僕

はたくさん仲間恵まれ、とても良い先生方に会えることができました。

中一のところ、僕は人とコミュニケーションを取るのが苦手で、あまり友達ができずに、一人で過ごす時間が多くありました。そして中二になりました。僕は今年も一人で学校生活を送るのかと思っていました。しかし、新しいクラスの人たちはとてもフレンドリーに接してくれました。そして、一年でたくさん友人ができました。この三年間で僕は皆と共に歩んで

時にぶつかり合いつつも成長することができました。僕は、お世辞にも成績がいいとは言えません。しかし、先生方はとても丁寧に僕に教えて下さいました。そんな先生方に僕はとても感謝しています。そして、僕を受け入れて仲良くしてくれた人たちにもとても感謝しています。そして、こんな僕を苦勞してここまで育ててくれた両親にもとても感謝しています。僕と関わってくれた人はたくさんいます。勉強を教えてくださいました先生方、僕と仲良くしてくれたたくさんの人たち、生まれてからずっと育ててくれた両親などです。

そんな人たちに僕は感謝の気持ちを伝えたいのですが、面と向かってだと恥ずかしいので、この場で言わせていただきます。ありがとう。

チャンスから得た成長

三年七組 仲座 李玲



「チャンスは誰にでも訪れる」という言葉があります。私はこれを何度も耳にしたことはあったものの、深く考えたことはありませんでした。しかし、中学の三年間を思い返してみたとき、その意味を実感させられました。

私は卒業を前にして、三年間を振り返り、この学校でしか経験できな



卒業おめでとう

いような、ここにしかないものは何か考えてみました。最初に思い浮かんだのは、空手や英検、異文化交流、ボランティア活動と「沖繩尚学」の代表的な取り組みでした。しかし、よく考えてみると、ここにいる先生方、生徒、場所さえもここでしかない出会い、体験なのではないかと思いがつきました。それは、全てが私を成長させてくれるチャンスがあるということです。これらのチャンスは、この学校にいる限り必ず出会うことになり。自分から積極的に向き合って上手く活用すれば、とても大きな成長を得ることができます。それが結果的に成功しなかったとしても、その教訓が私たちを成長させてくれるのです。今思えば、この学校で、私はそのようなことが何度もありました。このような経験を繰り返して、今になってやっと、「私たちにチャンスがたくさんある、けれど、それを見て見ぬふりをしたら何も変わらない、挑戦してしっかり向き合えば、必ずどこかで成長できる」ということを感じるようになりました。「チャンスは誰にでもある」という言葉の深い意味を中学の三年間で実感し、学ぶことができました。私が三年間たくさんのチャンスのあるこの素敵な環境にいられたのは、周りの人たちがこの学校のおかげだと思えます。ありがとうございます。



「卒業生の皆さんへ」

中三学年主任 宮城 康二



初めて皆さんと出会ってからは、三年という月日が流れました。学年主任という

大役を拝命して以来、今日までの日々は、常に「悩み」と「迷い」の連続でした。「自分のやっていることが、本当に生徒達のためになっているのだろうか?」と自分で問答し続けました。苦しいことが多い日々ではありましたが、皆さんの明るい笑顔と優しさに触れることで、「自分も頑張ろう」と前向きな気持ちになることができました。日々

成長する皆さんからパワーを分けてもらうことで、ここまで来ることができました。皆さんと過ごした三年間のすべてのできごとが、私の一生の宝物であり、財産です。皆さんとの出会いに心から感謝！さて、これから高校生になる皆さんへ、私が座右の銘としている言葉を贈ります。

『日々一生懸命』

『日々感謝』

『日々笑顔』

高校生活は、これまで以上に試練の連続になると思います。しかし、「常に一生懸命努力し、周りの人々への感謝を忘れずに、日々笑顔で頑張る人」であるならば、周囲の人々から愛され、支えられて困難を乗り越えることができると思います。

人生の中で高校生活はたった三年間しかない貴重な時間です。失敗を怖れず、たくさんのことにチャレンジして下さい。卒業おめでとう！

「卒業生の皆さんへ」

P.T.A三学年委員長 安座間 智美



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは中学受験をし今日までの三年間、「人の

持つ強さや優しさを学び、人間力をつける」事ができたかと思えます。映画「君の名は。」の台詞で「糸を繋げることもムスビ 人を繋げることもムスビ 時間が流れることもムスビ ぜんぶ同じ言葉を使う…」とありました。

ムスビとは、結ぶということ。皆さんが過ごしてきた十五年間という流れが、今こうして卒業式という時間に結びつき、たくさんの友達・友人が出来たことは人と人を結び、まさに糸でつながっているように思いませんか。偶然ではなくすべてが必然だと感じています。皆さんは、この中学校で会うべくして会い、時間を共有したのです。

勿論、皆さんに関わってきた先生方や保護者の皆さんもそうです。これから自分で糸をつなげて行つて下さい。そして、その糸を手繰り寄せて下さい。その力を皆さんも持っています。自信を失いかけたり、諦めそうになったときには、自分に備わっている力を信じて、自ら伸ばした糸を手繰り寄せるために、力いっぱい努力し、工夫し、必ず成し遂げるという気持ちで続けられ糸をたくり寄せることができます。その糸は、夢や希望だけではなく、皆さんに関わって来た方々や時間をもたぐりよせてきますので、力をフルに発揮して夢に向かって羽ばたく事を期待しています。

覗いてみよう!

各学年行事紹介 特集・職業講話

未来への道しるべ

今年度も後半ということで、学年行事の報告が出揃って参りました。

一学年は二月十日に携帯電話についての講義を、三学年は十一月十八日に親子ソフトバレーボール大会を行っています。今回このコーナーで取り上げるのは二学年の行事です。二学年では十二月九日、「未来への道しるべ 十四歳のハローワーク」と題して、職業講話がおこなわれました。

この行事は、沖尚同窓会にご協力いただき、卒業生をはじめとする皆様十六名に、それぞれ約一時間の職業講話をしていただき、質問を交え、生徒たちに興味のある仕事について学んでもらうものです。生徒は希望した会場で、それぞれ二名の講師か



らお話を伺います。

この行事の魅力は、各界で顕著にご活躍の方々が、後輩の中学生に向けての講話ということで、心を開き、それぞれの仕事の、あまり一般には語られない実態や適性について、わかりやすく解説してくださることで、なにしろ講師の方々ほとんどが沖尚のOBですから、ご自分の沖尚時代の描写に始まり、大学ではどうだったか、どんなふう到现在の職業に就き、どのような経験をされたか。魅力、怖さ、要求されるもの。そうしたことを、スライドなどの資料を交えてお話しして下さいます。普通ならちよつと遠い特別な人たちの経験を、いわば現在から地続きの形で見せて頂けるのです。

世の中にはこの種の一般的な講演会もありますが、微妙に的の外れた、隔靴搔痒なものになりがちです。ですから、むしろ親たちの方が感動し、質問の少ないことを歯がゆく思ったり、自分たちから質問したりした者も少なくありません。このような行事をこのようなレベルで企画、実行できてしまう中学校は全国でも多くはありません。筆者は公立私立、いろいろな学校を見ておりますが、沖



繩では沖尚だけではないでしょうか。



■講師 西平賀政さん ■職業 精神科医

二年一組 大濱 美紅

精神科医なので仕事の説明と色々するのかなと思っておりましたが、自分の体験談を混じえながらする説明はとても分かりやすく、医者という仕事の大変さが伝わりました。

しかし、西平さんは「仕事をたらいと申したことはない」と言っていました。それは「自分ができるとの区切り」をつけているからと聞き、どんな時でも「医者」という自分を忘れずにいるんだなと思いました。もし自分なら患者さんに感情移入しすぎてしまうかも知れないと思いま

した。

十四才の私たちに向けて、いつてくれた言葉の中で一番印象に残っているのは「自分に自信を持つ」という言葉です。私はすぐ自分をなくし落ち込んでしまうので、この言葉を忘れずにいようと思えました。今回はお忙しい中講演して下さいありがとうございました。

■講師 西村松太郎さん ■職業 県立豊見城南高等学校 数学教諭

二年六組 友利 さや

先日は、お忙しい中、沖繩尚学へ講話のために足をお運び頂いてありがとうございました。私は、将来教師になりたいと考えていて、今回、

外の世界を



西村さんの講話にすごく興味を持ちました。講話を聞いて、教師の主な仕事や、教員の今の状況だけではない、今からどのように頑張っていけば良いのかなども教えて頂いて、すごく勉強になりました。また、どの場面でも必要となるとおっしゃっていた「コミュニケーション能力」が西村さんは高く、自身が目標にしているとおっしゃっていた「生徒との距離が近い教師」として働いていらっしゃるんだろな、とあこがれを持ちました。私達の聞きやすいように、話し方も工夫して下さい、とてもわかりやすかったです。

私は、将来、教師として学校という場に大人になっても立てるように、「ゴールのあとのスタートを忘れない」「常に学び続け、学歴よりも学習歴」を忘れずに、日々の努力を欠

かさず頑張ります。ありがとうございました。

■講師 山城吉道先生
■職業 日本銀行那覇支店次長

二年六組 島袋 百々花

今日はお忙しいなか、貴重な講話をしていただきありがとうございます。いつも、何気なく使っているお札もたくさんの方の手がかかっていることを知りました。そして、相手とコミュニケーションをとって、自分たちをわかってくれる人がいるということ、何事にもおもしろみを見つけないこと、今、勉強しているのは、よりよく楽しい人生を送るためだということなど、かぞえきれない位の事を

今回の講話で学ぶことができました。銀行のしくみやたくさん知ることができて、銀行について興味を持ちました。それから、私は人のためになるような事を出来るようになります。今日は本当にありがとうございました。

PTA活動報告 (受賞者)

- ◆日本PTA九州ブロック大会功労賞受賞
前PTA会長 樋口泰子 (個人賞)
- ◆沖縄県PTA連合会 団体賞受賞
沖尚中PTA (団体賞)
- ◆那覇市PTA連合会 個人賞受賞
前PTA副会長 多良間勝志さん
前三学年委員長 桃原奈津子さん

中1 ボランティア活動

11月26日、沖尚高校体育館において、メキシコ地震支援チャリティコンサートが開かれました

「空手部」の迫力ある演舞と「合唱部」の素晴らしいハーモニーでコンサートを盛りあげました。「うないぐみ」のライブではうちなーんちゅのアイデンティティを再認識。最後のカチャーシーは子どもたちも次々と踊りだし会場全体で楽しみました。募金活動での寄付金も贈呈し、支援の一端を担うことができました。

- ①第18回那覇地区中学校新人水泳競技大会 (1月13日)
女子50m平泳ぎ **第1位** 加屋本悠(1の5) (36秒06)
女子50m自由形 **第1位** 加屋本悠(1の5) (29秒02)
女子100m背泳ぎ **第2位** 加屋本悠(1の5) (1分07秒56)
男子50m平泳ぎ **第1位** 吉岡円舵(1の5) (34秒91)
男子100m平泳ぎ **第2位** 吉岡円舵(1の5) (1分14秒42)
- ②第38回九州カップ水泳競技大会 (2月3日)
男子11・12歳 50m平泳ぎ **第1位** 吉岡円舵(1の5) (32秒35)
男子11・12歳 100m平泳ぎ **第1位** 吉岡円舵(1の5) (1分10秒62)
- ③第17回沖縄県中学校新人テニス競技大会 (2月4日)
中学生団体 **優勝** 沖縄尚学高等学校附属中学校
男子シングルス **第3位** 上里慈和(2の2)
女子ダブルス **第3位** 熊野智花(1の4)・外間友紀乃(2の7)
- ④第61回全沖縄中学校新人柔道大会 (2月11日)
中学生個人形 **優勝** 沖縄尚学高等学校附属中学校
女子63kg級 **第1位** 宮城可輝(2の3)
女子70kg超級 **第1位** 金城陽菜(2の4)
- ⑤平成29年度那覇市スポーツ少年空手道交流大会 (1月14日)
中学生個人形 **優勝** 細谷琉渡(2の1)
- ⑥第22回那覇市空手道古武道選手権大会 (8月26日)
中学生男子組手 **第2位** 細谷琉渡(2の1)
中学生男子形 **第2位** 細谷琉渡(2の1)
- ⑦第22回浦添市ランク別ダブルスバドミントン大会 (2月25日)
女子初心者 **準優勝** 伊佐美羽(1の1)・城間心子(1の6)

- ⑧第65回全琉小・中・高校図画作文書道コンクール (10月31日)
書道部門 **最優秀賞** 佐藤遥香(1の5)、森山さくら(2の7)
優秀賞 四宮郁萌(1の5)、齊藤聖(1の7)、伊波輝(3の1)、永井里佳(3の1)
絵画部門 **最優秀賞** 饒波あずさ(1の7)、石垣穂(3の3)、國吉乃愛(3の7)
優秀賞 伊波泉紀(1の7)、四宮郁萌(1の5)、西端清之介(1の6)、大城響也(1の3)、仲地実珠々(1の2)、平良咲(1の5)、當山富来(1の3)、我那覇朝楽桜(2の6)、前野光徳(2の1)、徳永悠真(2の2)、伊禮新生アレキサンダー(3の2)、宜保沙希南(3の6)、植村真乃(3の2)
- ⑨第56回伊勢神宮奉納書道展 (11月25日)
大会委員長賞 山内涼(3の7)
- ⑩第39回読売学生書展 (12月17日)
半紙の部 **金賞** 比屋定花菜(1の7)
条幅四分一部 **金賞** 比屋定花菜(1の7)
条幅の部 **秀逸** 比屋定花菜(1の7)
- ⑪国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト (1月11日)
特別学校賞 沖縄尚学高等学校附属中学校
- ⑫第17回全沖縄暗算競技大会 (2月18日)
中学生の部 読上暗算競技 **第2位** 宮内快(1の6)
中学生の部 フラッシュ暗算競技 **第2位** 宮内快(1の6)
中学生の部 個人総合競技 **満点賞** 嘉陽司英菜(2の3)

スポーツ活動

平成29年度 表彰者一覧 2学期～

文化活動

- ①平成29年度那覇地区中学校テニス競技1・2年生強化大会 (8月3日)
男子ダブルス **準優勝** 宮城麟之介(1の2)、上原翔(2の6)
第3位 肥谷るい(2の5)、新里夕輝(2の5)
- ②第28回九州中学校柔道競技大会 (8月5・6日)
女子団体 **第3位** 沖縄尚学高等学校附属中学校
女子個人戦57kg級 **第2位** 宮里心菜(3の4)
女子個人戦63kg級 **第2位** 新崎愛(3の1)
- ③第69回沖縄県体育大会水泳競技 (6月25日)
中学女子100m自由形 **第1位** 加屋本悠(1の5) (1分02秒88)
- ④第63回全日本中学校通信陸上競技大会 (8月1日)
男子共通 走幅跳 **第8位** 手登根永心(3の2) (6m75)
- ⑤第48回全沖縄ジュニア陸上競技選手権大会 (8月26・27日)
男少年A 100m **第1位** 手登根永心(3の2) (11秒31)
男少年A 200m **第2位** 手登根永心(3の2) (23秒60)
第8位 比嘉丈偉(3の5) (24秒17)
男ABC共通 4x100mリレー **第8位** (48秒00)
呉地渉(1の2)・宮城斉揮(3の4)
馬越新(2の3)・比嘉丈偉(3の5)
女ABC共通 ジャベリックスロー **第3位** 久保田聖風(3の4) (41m20)
女少年C共通 800m **第4位** 金城夏海(1の1) (2分35秒85)
女少年A共通 200m **第5位** 名渡山サティーバ輝(3の4) (27秒86)
- ⑥第59回那覇地区中学校陸上競技大会 (9月15日)
共通女子 100m **第1位** 名渡山サティーバ輝(3の4) (12秒7)
共通女子 200m **第1位** 名渡山サティーバ輝(3の4) (26秒6)
共通男子 走幅跳 **第1位** 手登根永心(3の2) (6m62)
共通女子 800m **第2位** 金城圭良シェパード(3の2) (2分38秒8)
共通女子 走幅跳 **第3位** 細田まあれ(3の7) (4m36)
共通男子 110mハードル **第1位** 手登根永心(3の2) (14秒8)
共通男子 4x100mリレー **第3位** (46秒4)
宮城斉揮(3の4)・手登根永心(3の2)
比嘉丈偉(3の5)・安里義仁(3の3)
共通女子 4x100mリレー **第2位** (53秒6)
久保田聖風(3の4)・金城圭良シェパード(3の2)
細田まあれ(3の7)・名渡山サティーバ輝(3の4)
1年女子 4x100mリレー **第3位** (56秒7)
照屋希歩(1の4)・星田真那(1の7)
照屋季依(1の7)・桃原伶歌(1の4)
1年女子 100m **第2位** 桃原伶歌(1の4) (13秒8)
共通女子 ジャベリックスロー **第2位** 久保田聖風(3の4) (40m77)
女子総合の部 **第2位** 沖縄尚学高等学校附属中学校 (61点)
応援団賞 **最優秀賞** 沖縄尚学高等学校附属中学校
- ⑦第49回九州ジュニア水泳競技 (9月23日)
男子11～12歳 50m平泳ぎ **第3位** (34秒42) 吉岡円舵(1の5)
- ⑧第1回沖縄県中学校団体テニス大会 (9月10日)
団体女子 **第3位** 沖縄尚学高等学校附属中学校
- ⑨第59回沖縄県中学校陸上競技大会 (10月21日)
男共通 110mハードル **第1位** 手登根永心(3の2) (14秒97)
男共通 走幅跳 **第1位** 手登根永心(3の2) (6m79)
女共通 100m **第2位** 名渡山サティーバ輝(3の4) (12秒60)
- ⑩第43回全日本バトントワーリング選手権沖縄支部大会 (11月3日)
ソトワール 女子U-15 **第1位** 羽地優(3の3)
ソトストラット U-15 **第1位** 羽地優(3の3)
- ⑪平成29年度沖縄県テニス選手権大会 (12月10日)
ジュニアの部 16歳以下女子ダブルス
優勝 外間友紀乃(2の7)
- ⑫第20回沖縄県中学校新人空手道競技大会 (12月2日)
1年男子個人形 **優賞** 島袋生成(1の1)
1年女子個人組手 **準優賞** 佐藤永理(1の3)
2年男子個人形 **準優賞** 細谷琉渡(2の1)
- ⑬第11回うるま若獅子杯空手道交流大会 (12月16日)
中学女子団体組手 **準優賞** 沖縄尚学高等学校附属中学校A
中学女子団体組手 **第3位** 沖縄尚学高等学校附属中学校B
- ⑭沖縄県テニス協会創立50周年記念テニス大会 (12月10日)
中学生男子の部 **準優勝** 沖縄尚学高等学校附属中学校
中学生女子の部 **準優勝** 沖縄尚学高等学校附属中学校
- ⑮第35回那覇地区中学校新人テニス競技大会 (1月7・8日)
男子団体 **第3位** 沖縄尚学高等学校附属中学校
女子団体 **第3位** 沖縄尚学高等学校附属中学校
男子シングルス **優賞** 上里慈和(2の2)
女子シングルス **準優勝** 外間友紀乃(2の7)
女子ダブルス **優賞** 熊野智花(1の4)・外間友紀乃(2の7)

7ページ下段に続く

- ①平成29年度那覇地区中学校英語ストーリーコンテスト (6月17日)
優秀賞 板倉沙夏(3の2)
- ②第69回高円宮杯那覇地区中学校英語弁論大会 (9月23日)
優良賞 森山さくら(2の7)
- ③平成29年度全日本通信珠算競技大会 (10月15日)
【中学生の部】
団体総合競技 **第2位** 新崎一帆(3の3)、大城奈々(2の2)、宮城穂(1の4)
個人総合競技 **グロoupアップ賞** 嘉陽司英菜(2の3)
個人総合競技 **第3位** 嘉陽司英菜(2の3)
読上算競技 **第2位** 齊藤 聖(1の7)
読上暗算競技 **第2位** 齊藤 聖(1の7)
フラッシュ暗算競技 **第2位** 宮城珠礼(1の4)
読上暗算競技 **第2位** 大城奈々(2の2)
フラッシュ暗算競技 **第2位** 大城奈々(2の2)
個人総合競技 **第3位** 大城奈々(2の2)
読上算競技 **第2位** 宮城穂(1の4)
個人総合競技 **第3位** 宮城穂(1の4)
- ④第54回九州赤旗全国将棋大会 (10月8日)
B級 **準優勝** 嶋澤阿覧(2の6)
D級 **優勝** 津波古貴瑠(2の1)
- ⑤ボランティア活動認定書 (8月31日)
那覇市銘苅小学校区まちづくり協議会
譜久原花怜(2の3)
- ⑥第53回那覇地区中学校科学作品展 (9月20日)
銀賞 上原良野(2の4)
- ⑦2017年宜野湾市英語ストーリーコンテスト (10月30日)
First Grade First Place 小林敬文(1の6)
First Grade Second Place 名嘉千晴(1の6)
- ⑧第9回学校対抗英語スプリングコンテスト (11月12日)
第1位 沖縄尚学高等学校附属中学校 (ピンクパンサーチーム)
- ⑨朝日アマチュア将棋名人戦沖縄県大会 (11月5日)
B級優勝 嶋澤阿覧(2の6)
D級3位 比嘉航(2の1)
- ⑩第12回沖縄支部連合会年末将棋大会 (12月10日)
A級3位 嶋澤阿覧(2の6)
- ⑪第36回全九州珠算選手権大会 (11月5日)
【中学生の部】
団体総合競技 **第2位** 宮城穂(1の4)、宮内快(1の6)、大城奈々(2の2)
個人総合競技 **優良賞** 宮城穂(1の4)
読上暗算競技 **第2位** 宮城穂(1の4)
フラッシュ暗算競技 **第2位** 宮城穂(1の4)
個人総合競技 **優良賞** 宮内快(1の6)
読上暗算競技 **第2位** 宮内快(1の6)
個人総合競技 **優良賞** 大城奈々(2の2)
読上算競技 **第2位** 大城奈々(2の2)
フラッシュ暗算競技 **第2位** 大城奈々(2の2)
- ⑫平成29年度中学生の「税についての作文」 (11月15日)
那覇税務署長賞 金城実玲(3の4)
那覇青色申告納税貯蓄組合長賞 島田菓子(3の6)
那覇青色申告納税貯蓄組合長賞 鈴木光穂(3の6)
優秀賞 具志堅杏奈(3の4)、平田花奈(3の5)、島袋凜(3の5)、
感謝状 沖縄尚学高等学校附属中学校
- ⑬第55回中学生作文コンクール (11月17日)
都道府県別賞 沖縄県佳作 神里春七(1の1)、我那覇音々(2の1)
- ⑭第27回グレンツェンピアノコンクール沖縄本選 (11月23日)
中学Aコース **金賞** 肥後綾南(2の2)
- ⑮第19回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 沖縄地区大会 (11月26日)
中学生部門 **銅賞** 高橋凜花(3の3)
- ⑯平成29年度「心の輪を広げる体験作文」 (12月6日)
中学生部門 **最優秀賞** 古謝心悠(1の2)←沖縄県
中学生部門 **優秀賞** 古謝心悠(1の2)←内閣府
- ⑰第47回南部地区小中学生珠算競技大会 (12月10日)
中学生の部 個人総合競技 **第2位** 賀数明奈(2の1)
- ⑱第47回中部地区小中学生珠算競技大会 (12月17日)
中学生の部 個人総合競技 **優勝** 宮内快(1の6)、嘉陽司英菜(2の3)
- ⑲平成29年度J A共済全国小・中学生書道地区コンクール (9月13日)
条幅の部 **優賞** 上原万侑(1の6)
優良賞 佐藤遥香(1の5)、植村真乃(3の2)
半紙の部 **優秀賞** 森山さくら(2の7)
佳作 齊藤聖(1の7)

7ページ下段に続く